

---

# 株式会社メガチップス

## 2008年3月期

### 3Q決算説明

(証券コード: 6875)  
代表取締役社長 松岡 茂樹

当社ホームページアドレス: <http://www.megachips.co.jp/>

# 目次

---

1. 2008年3月期3Q業績報告	.....	3
2. 2008年3月期通期業績予測	.....	10
3. 中期経営計画	.....	12
4. まとめ	.....	23

# 2008年3月期 3Q業績報告

---

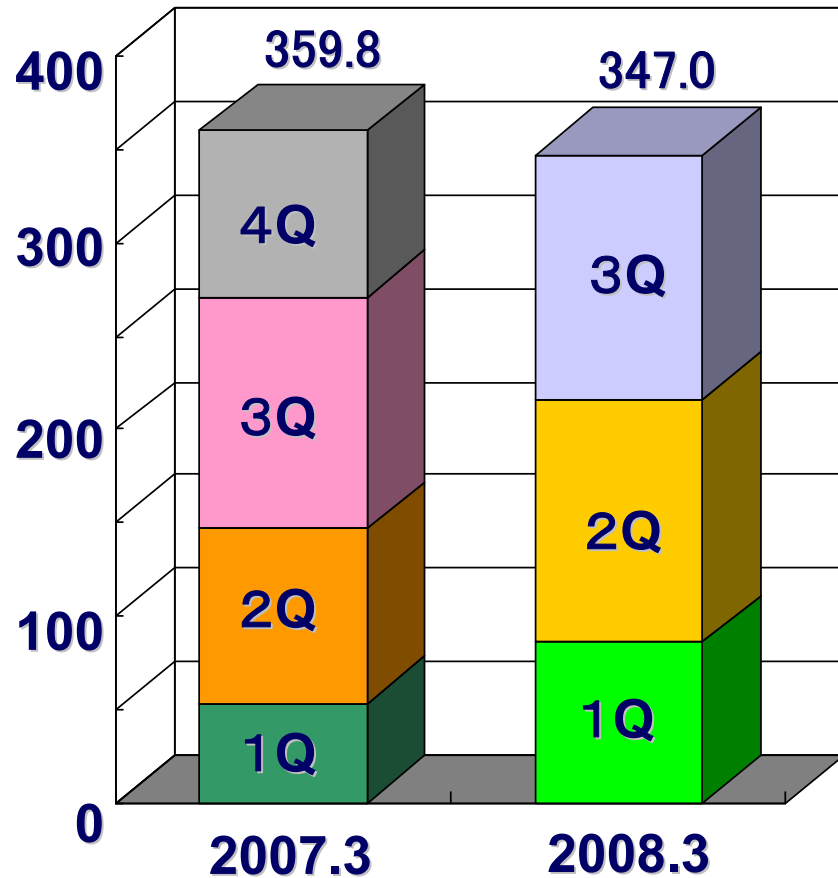
# 連結業績 (P/L)

(単位:百万円)		2008.3 3Q実績	2007.3 3Q実績	2008.3 期初通期 計画	対前年 同期比	対通期計画 消化率
LSI事業	売上高	38,285	31,202	50,000	+ 22.7%	76.6%
	営業利益	3,397	2,665	3,500	+ 27.5%	97.2%
システム事業	売上高	1,794	1,817	5,800	- 1.3%	30.9%
	営業利益	- 545	- 225	100	—	—
連結	売上高	40,079	33,019	55,800	+ 21.4%	71.8%
	営業利益	2,788	2,386	3,600	+ 16.8%	77.4%
	経常利益	2,697	2,364	3,600	+ 14.1%	74.9%
	当期純利益	2,167	1,236	2,650	+ 75.3%	81.8%
	1株利益(円)	87.46	49.92	106.91	+ 75.2%	81.8%

# LSI事業の業績(ASIC)

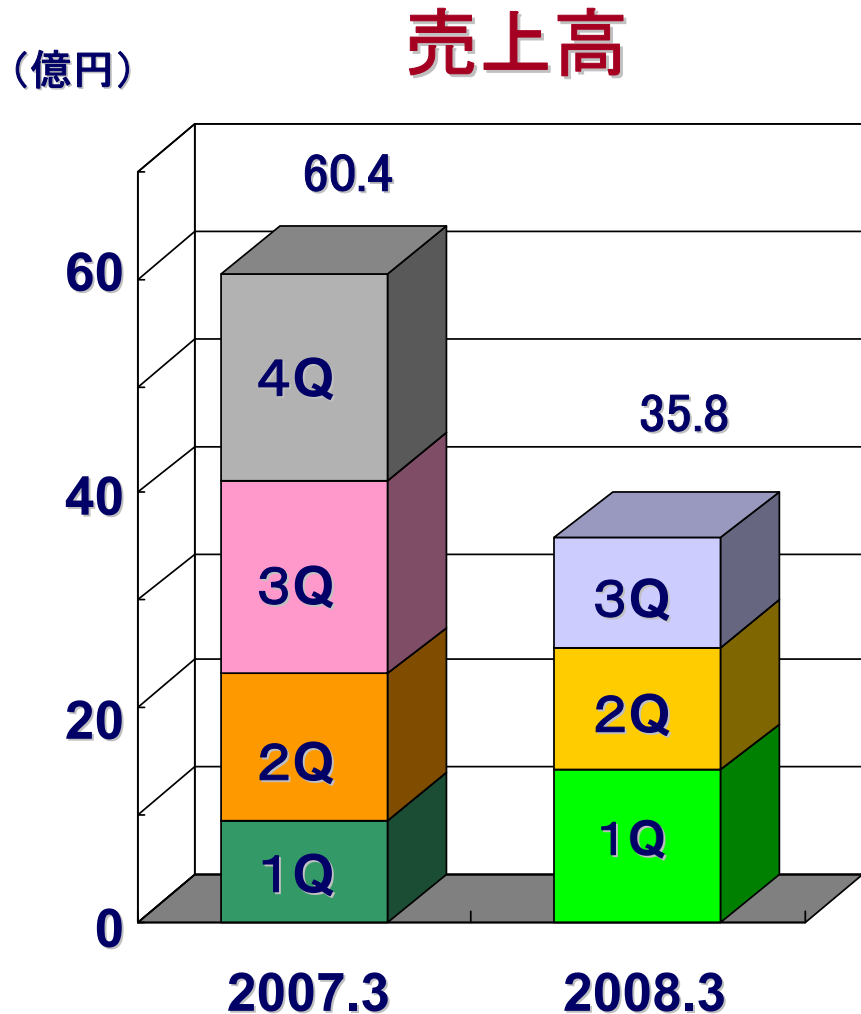
## 売上高

(億円)



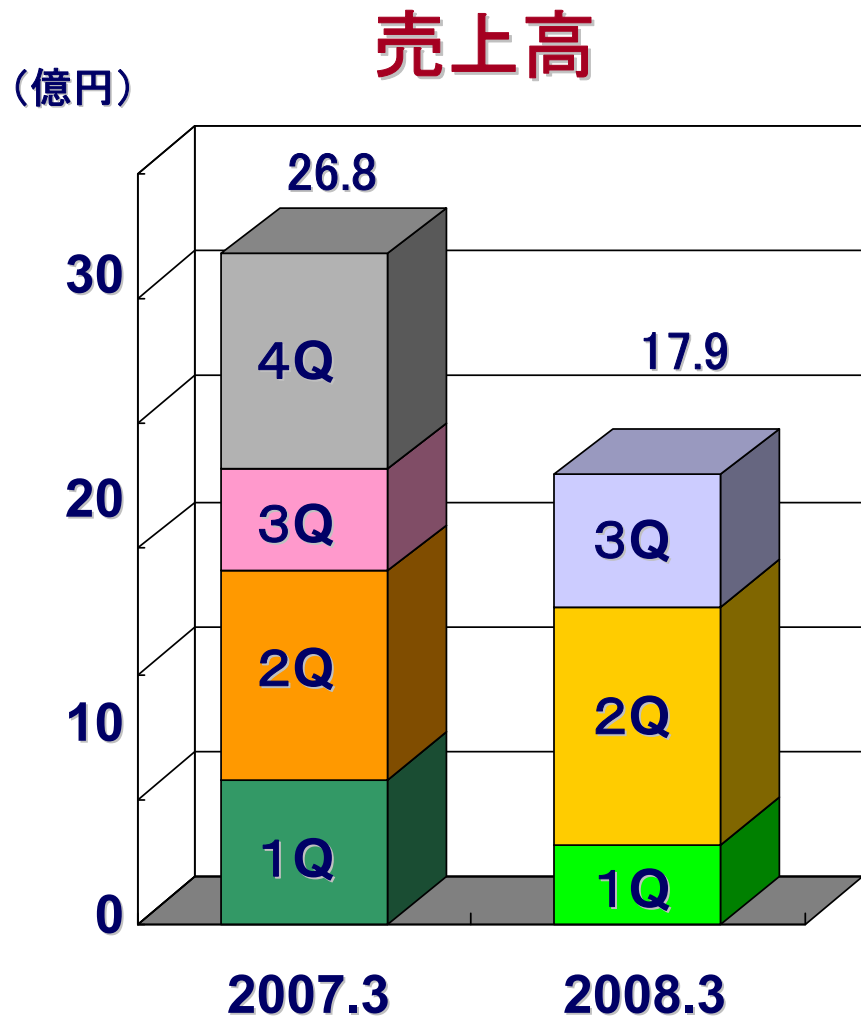
- 売上高は前年同期比で増加し、ほぼ計画を達成した。
- 売上増加の要因は携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要が堅調であったため。

# LSI事業の業績 (ASSP)



- 売上高は前年同期比で減少し、計画未達となった。
- デジタル放送1セグメント受信用LSIを中心に需要は伸びたが、国内及び中国向けのメモリ製品が減少したため、対前年比売上減となった。

# システム事業の業績



- 売上高はほぼ前年並み。計画未達となった。
- 顧客専用映像監視機器は2Qに新製品が立上ったことにより増加したものの、自社ブランドの既存製品が減少した。
- セルフセキュリティ新製品の市場浸透が遅延。

# 連結業績 (B/S)

(単位:百万円)	2007.12	2007.3	増減	(単位:百万円)	2007.12	2007.3	増減
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>33,022</b>	<b>26,040</b>	<b>6,982</b>	<b>流動負債</b>	<b>17,569</b>	<b>10,446</b>	<b>7,123</b>
現金及び預金	3,827	4,737	- 910	買掛金	4,285	4,640	- 355
受取手形及び売掛金	26,489	18,316	8,173	短期借入金	12,000	4,000	8,000
たな卸資産	2,243	2,357	- 114	未払法人税等	428	968	- 540
<b>固定資産</b>	<b>9,483</b>	<b>6,301</b>	<b>3,182</b>	<b>固定負債</b>	<b>2,091</b>	<b>2,202</b>	<b>- 111</b>
有形固定資産	189	160	29	<b>負債合計</b>	<b>19,661</b>	<b>12,648</b>	<b>7,013</b>
無形固定資産	172	154	18	<b>純資産合計</b>	<b>22,844</b>	<b>19,693</b>	<b>3,151</b>
投資その他の資産	9,121	5,986	3,135	<b>負債・純資産合計</b>	<b>42,505</b>	<b>32,342</b>	<b>10,163</b>
<b>資産合計</b>	<b>42,505</b>	<b>32,342</b>	<b>10,163</b>				

- 資産の部は、前期末比10,163百万円の増加。流動資産が6,982百万円、固定資産が3,182百万円増加。流動資産は、主に受取手形及び売掛金が8,173百万円増加し、固定資産は、主に投資その他の資産が3,135百万円増加。投資その他の資産の増加は、投資有価証券の評価差額及び、長期前払費用の増加による。長期前払費用の増加は、従来たな卸資産に計上していた受託開発に含まれる量産準備費用の一部を、受託開発の規模が拡大しその原価の発生態様も変化していることより、長期前払費用に振り替えたことによる。
- 負債の部は、買掛金が355百万円減少し、短期借入金が8,000百万円増加し、前期末比7,123百万円増加した。
- 純資産の部は、当期純利益等により資本が増加したことと、配当等の利益処分による資本の減少による差し引きにより、前期末比3,151百万円の増加。

# 連結業績(C/F)

(単位:百万円)	2008.3 3Q	2007.3 3Q	2007.3	対前年
営業活動によるキャッシュフロー	- 7,080	- 7,445	- 1,919	365
税金等調整前当期純利益(+)	2,586	2,350	2,855	236
売上債権の増加(-)又は減少(+)	- 8,182	- 7,720	- 4,527	- 462
たな卸資産の増加(-)又は減少(+)	- 703	- 1,669	- 1,387	966
仕入債務の増加(+ )又は減少(-)	- 353	280	1,597	- 633
法人税等の支払額(-)又は還付額(+)	- 720	- 861	- 862	- 141
投資活動によるキャッシュフロー	- 1,374	- 491	- 660	- 883
財務活動によるキャッシュフロー	7,571	6,631	2,633	940
現金及び現金同等物の残高	3,827	3,370	4,737	457
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	- 8,454	- 7,937	- 2,579	- 517

- 営業CFは、税金等調整前当期純利益が2,586百万円となり、売上債権の増加8,182百万円とたな卸資産の増加703百万円、仕入債務の減少353百万円、法人税等の支払額720百万円等により、7,080百万円の支出となった。
- 投資CFは、主に長期前払費用の取得等により、1,374百万円の支出となった。  
長期前払費用の増加は、従来たな卸資産に計上していた受託開発に含まれる量産準備費用の一部を、受託開発の規模が拡大しその原価の発生態様も変化していることより、長期前払費用に振り替えたことによる。
- 財務CFは、短期借入金増加等により、7,571百万円の収入となった。

# 2008年3月期 通期業績予測

---

# 2008年3月期業績見通し

(単位:百万円)		2008.3 修正計画	2008.3 期初計画	2007.3 通期実績	対期初 計画比	対前年 実績比	
LSI事業	売上高	ASIC	42,000	42,000	35,979	0.0%	+ 16.7%
		ASSP	8,000	8,000	6,040	0.0%	+ 32.5%
		50,000	50,000	42,020	0.0%	+ 19.0%	
	営業利益	3,700	3,500	3,173	+ 5.7%	+ 16.6%	
システム 事業	売上高	5,800	5,800	2,675	0.0%	+ 116.8%	
	営業利益	- 100	100	-187	—	—	
連結	売上高	55,800	55,800	44,696	0.0%	+ 24.8%	
	営業利益	3,600	3,600	2,920	0.0%	+ 23.3%	
	経常利益	3,600	3,600	2,869	0.0%	+ 25.5%	
	当期純利益	2,650	2,650	1,519	0.0%	+ 74.5%	
	1株利益(円)	106.91	106.95	61.34	- 0.0%	+ 74.3%	

※1 ストックオプションの行使、自己株式の取得があった場合、算定基準が変動します。

# 中期経営計画

---

# 中期経営計画の骨子

## 1. 成長分野への進出と事業拡大

(ア) 携帯機器向けデジタルTV、ハイビジョンAV

(イ) フルデジタルCCTV(デジタルCCTVカメラを含む)、ホームセキュリティ

## 2. ソリューションプロバイダーとして、更なる成長を目指す。

(ア) 社内に蓄積したLSIとシステムの能力を有機的に結合し、  
ビジネスモデルを多様化。

●顧客ニーズや事業特性に応じ、IP、LSI、自社LSIやソフトウェアを核としたモジュールやボード、大口顧客へのLSIやシステム製品のデザインサービスを提供

(イ) アライアンスを活用した、事業推進の強化。

●有力顧客に対するソリューション提供。

●他社との協業により、チップセットやシステムソリューションを提供。

●生産パートナーとの連携強化による顧客開拓。

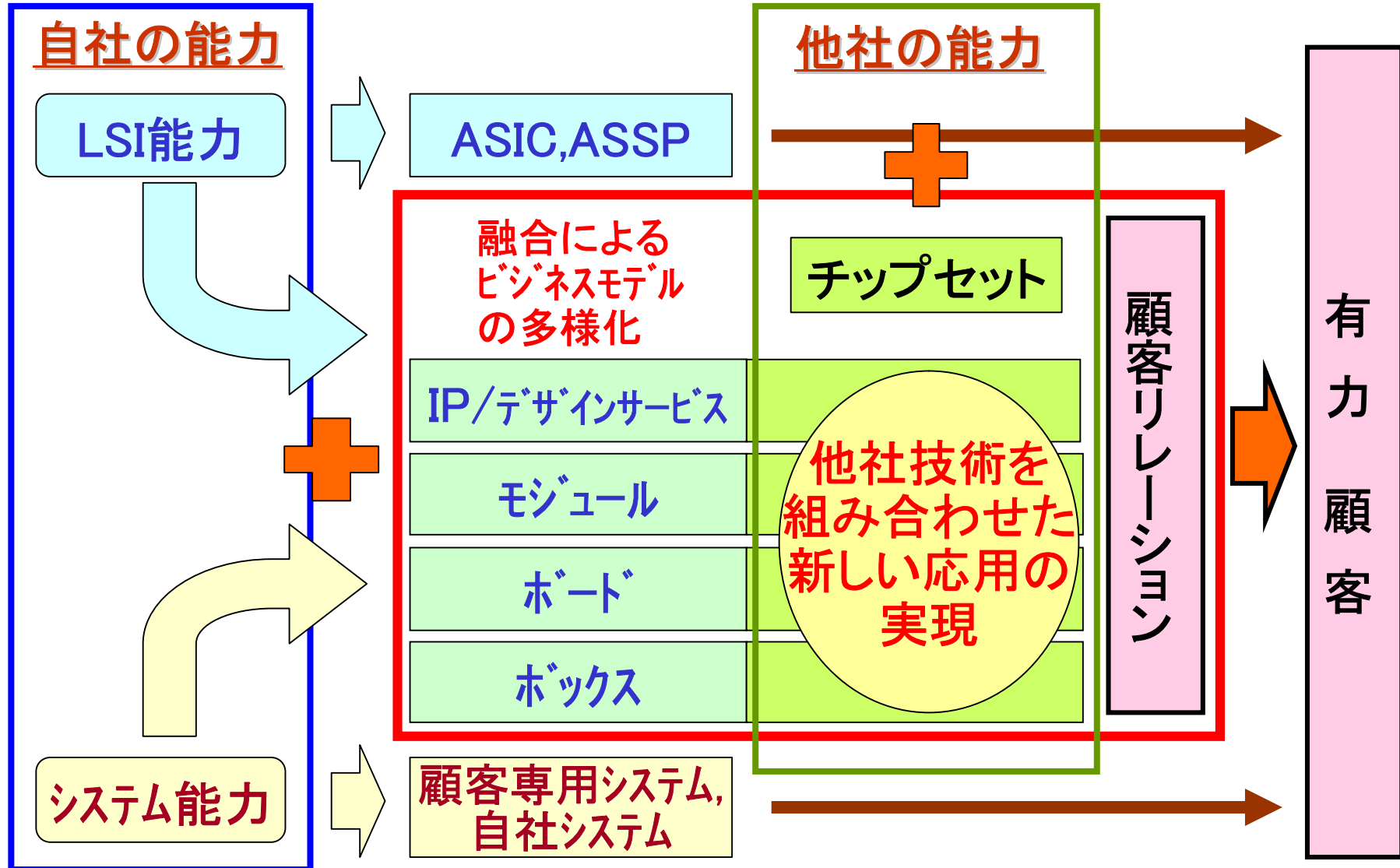
## 3. 事業バランスの適正化。

ASSP、システム製品、モジュール・ボード等ソリューション提供を拡大し、  
事業バランスを適正化する。

## 4. 積極的な株主還元。

業績連動配当政策。配当性向は30%を目処とする。

# ビジネスモデルの多様化



# LSI事業方針

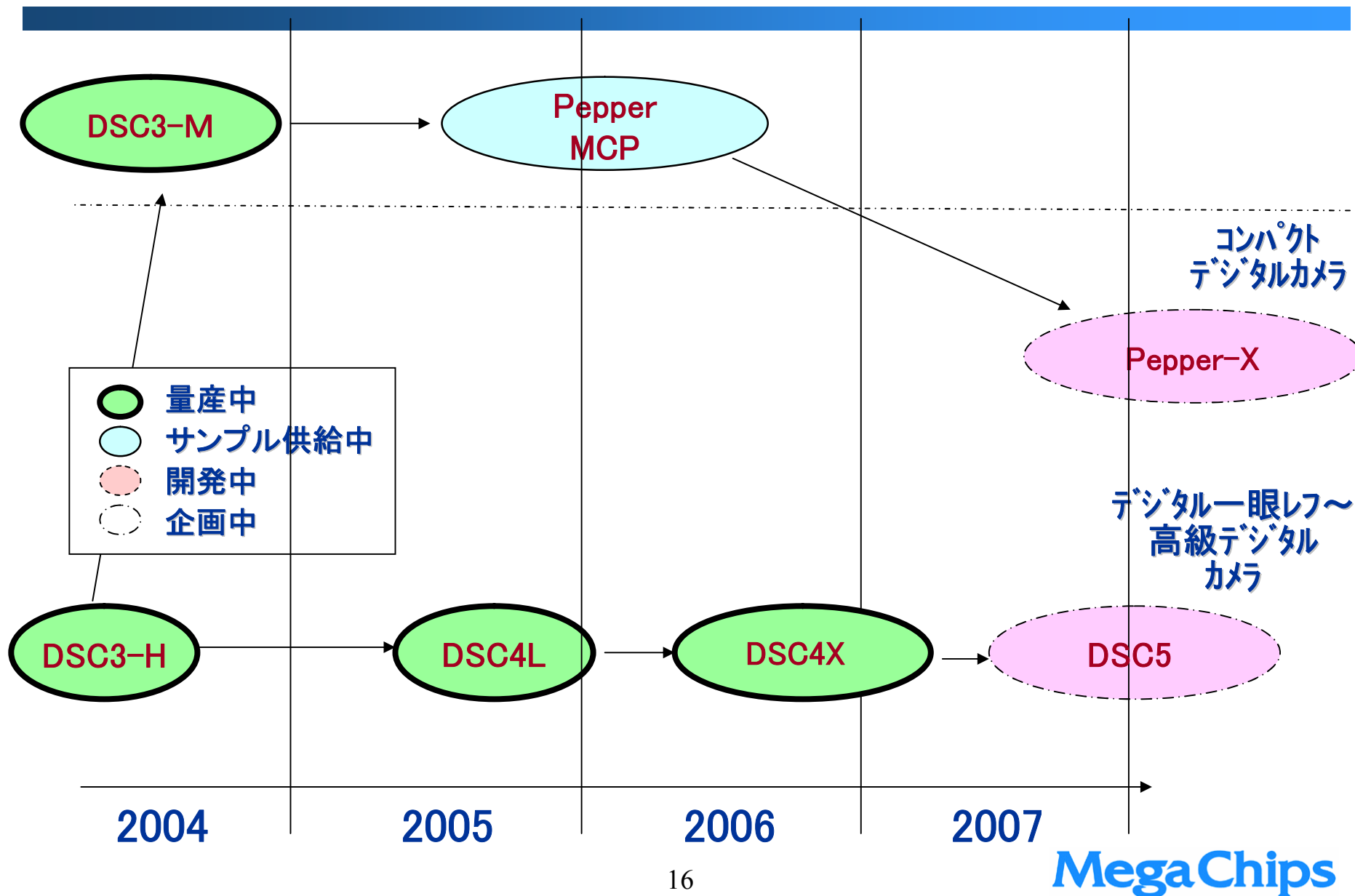
## ASIC(収益基盤事業)

- 自社技術・アライアンス先技術を幅広く提供し、顧客機器の差別化に貢献すると同時に供給製品を多様化する。

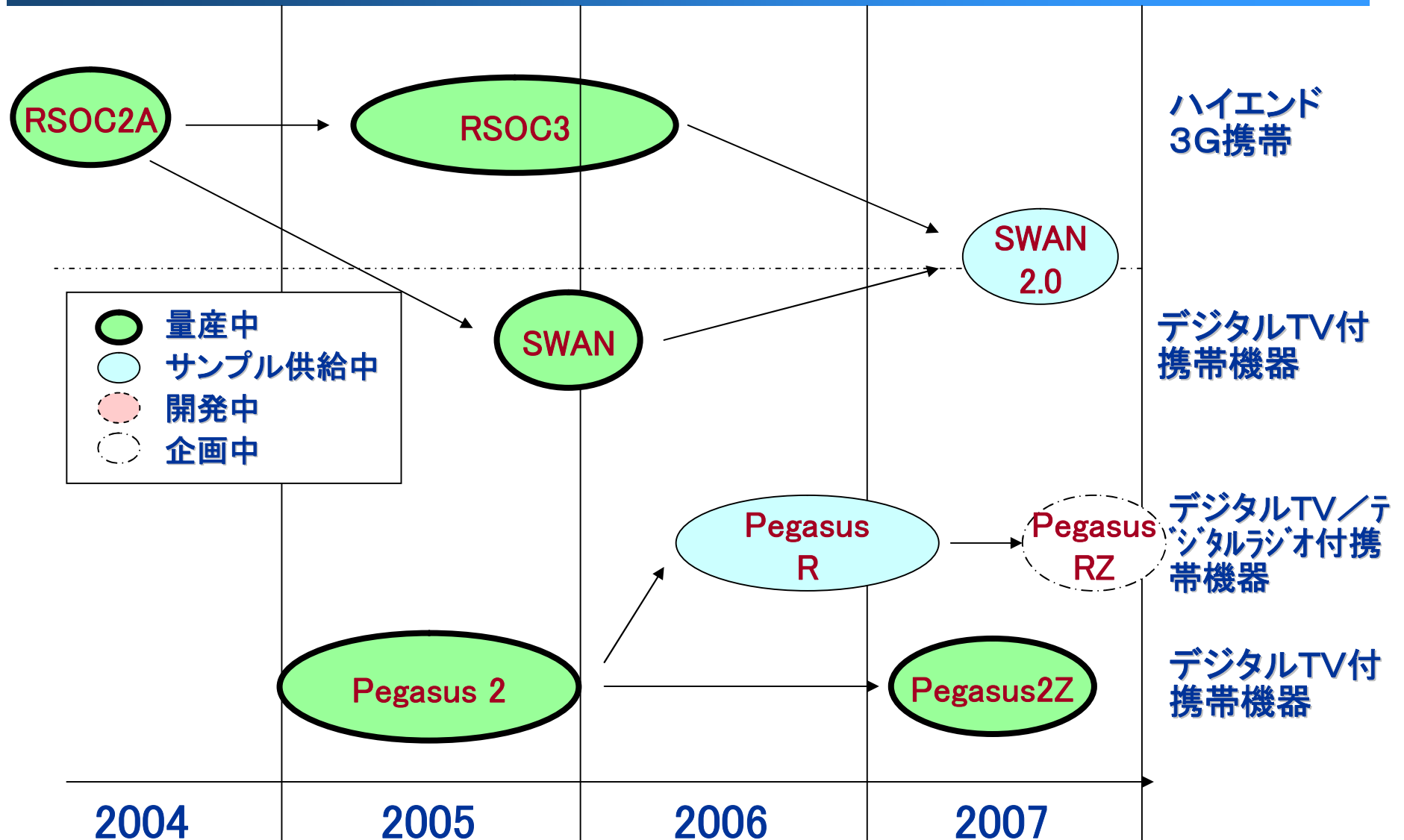
## ASSP(成長を狙う事業)

1. 応用分野と顧客基盤の拡大。
  - ・マルチメディア携帯電話、高画質デジタルカメラに加えて、コンパクトデジタルカメラ、デジタルTV受信携帯電話、車載TV、ハイビジョン映像機器等の用途を開拓。
  - ・高級機種から普及機種へ対象を広げる。
2. 顧客・アライアンスとの共同開発により、市場参入の成功確度を向上する。
3. 自社のシステム製品開発力の活用、他社との協業により、ソリューションプロバイダとしてビジネスを拡大する。
  - ・IP、モジュール、ボード製品へ対象を広げる。

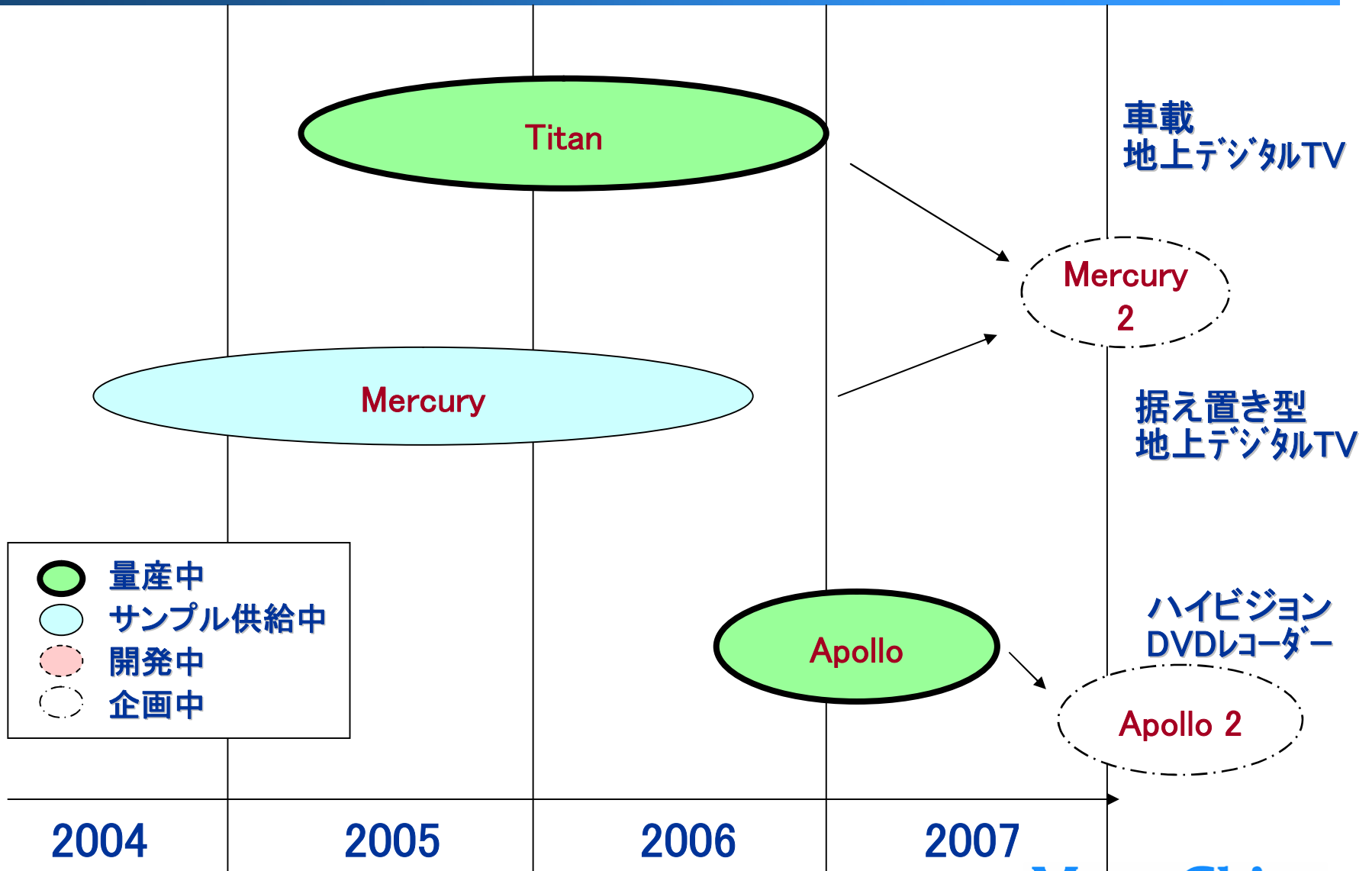
# ASSP製品展開(デジタルカメラ関連)



# ASSP製品展開(モバイルマルチメディア/AV)



# ASSP製品展開(ハイビジョンAV)



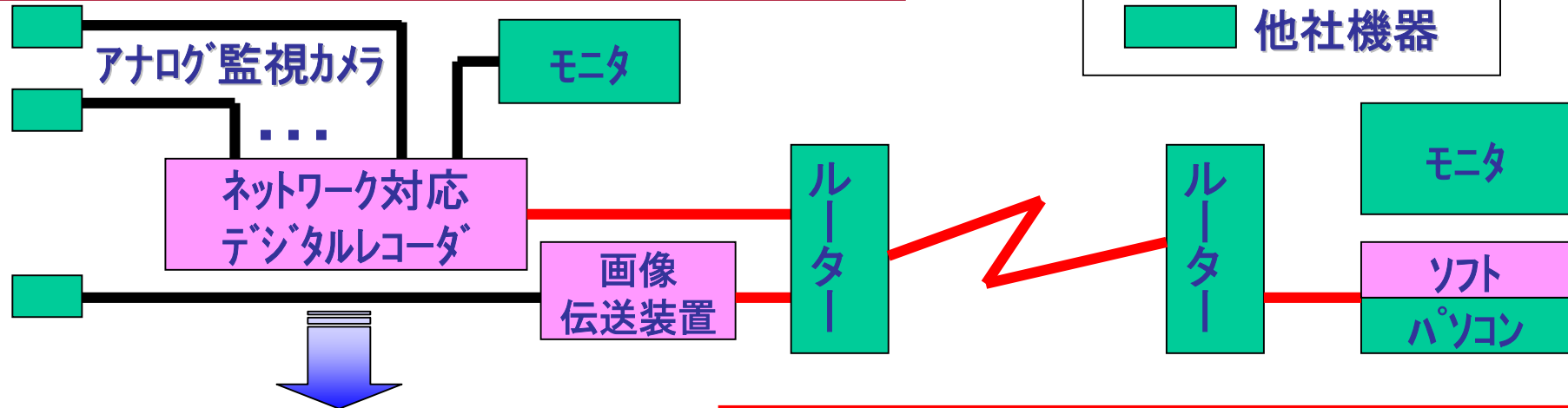
MegaChips

# システム事業方針

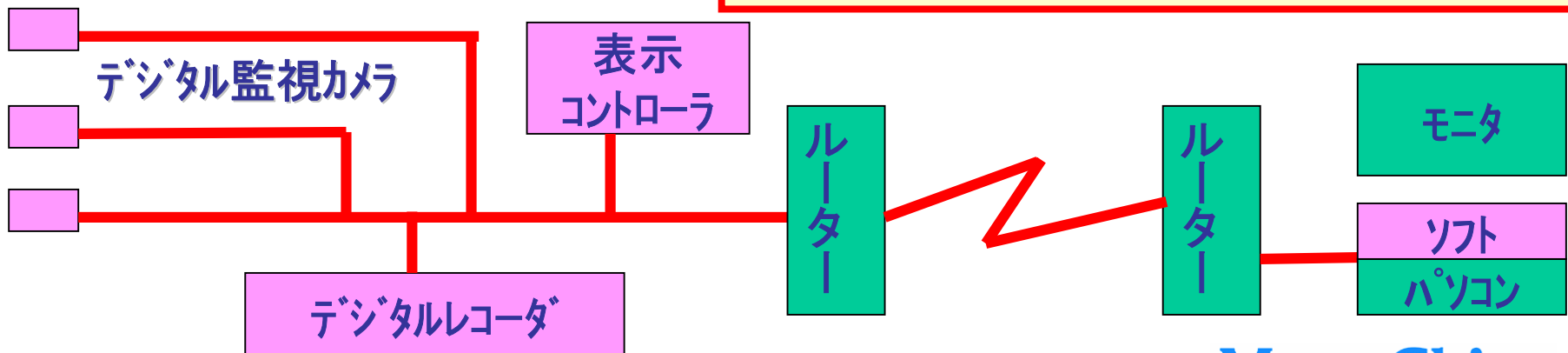
1. セキュリティ・モニタリング分野のデジタル化に対応して、ターゲット機器分野を拡大。(デジタル方式で監視カメラ等の市場に参入)
2. 着実に成長する業務用映像監視機器に加え、家庭用の映像監視機器にも進出する。
3. 生産委託先を海外も含め、多様化することにより原価低減を図る。
4. 大口顧客の業務に最適化した専用画像システムをベースロードに事業を拡大。
5. 安心・安全をサポートするフル動画ドアホンで、セルフセキュリティ市場を開拓する。

# 映像監視機器のトレンドと製品展開

## アナログ/デジタル複合映像監視システム



## フルデジタル映像監視システム



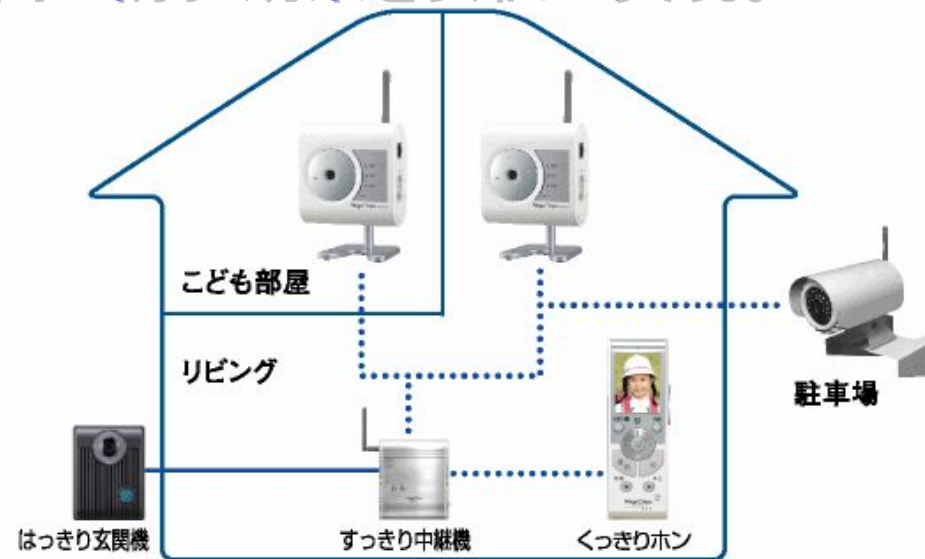
デジタル化で映像監視の全システムをカバー  
業務用途に加えホーム用途に広がる

# セルフセキュリティシステム

## 安心・安全をサポートするワイヤレス動画ドアホン

**くっきり動画ホン** (基本セット: はっきり玄関機、すっきり中継器、くっきりホン)  
(オプション: くっきりカメラ屋内用、くっきりカメラ屋外用)

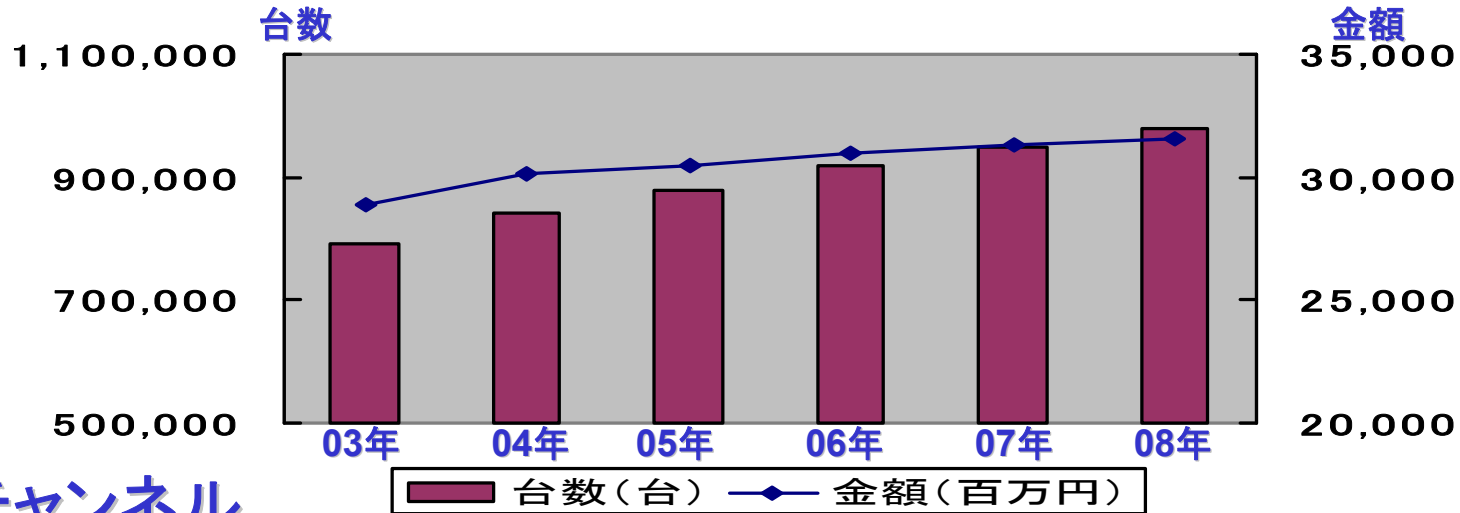
- ワイヤレスでの動画表示(高速通信可能な無線LANシステム)
- 家中どこでも持ち運び便利なシンプルデザイン。
- 拡張性に優れた無線LANシステム。
- 映像監視による高い防犯効果を安価に実現。



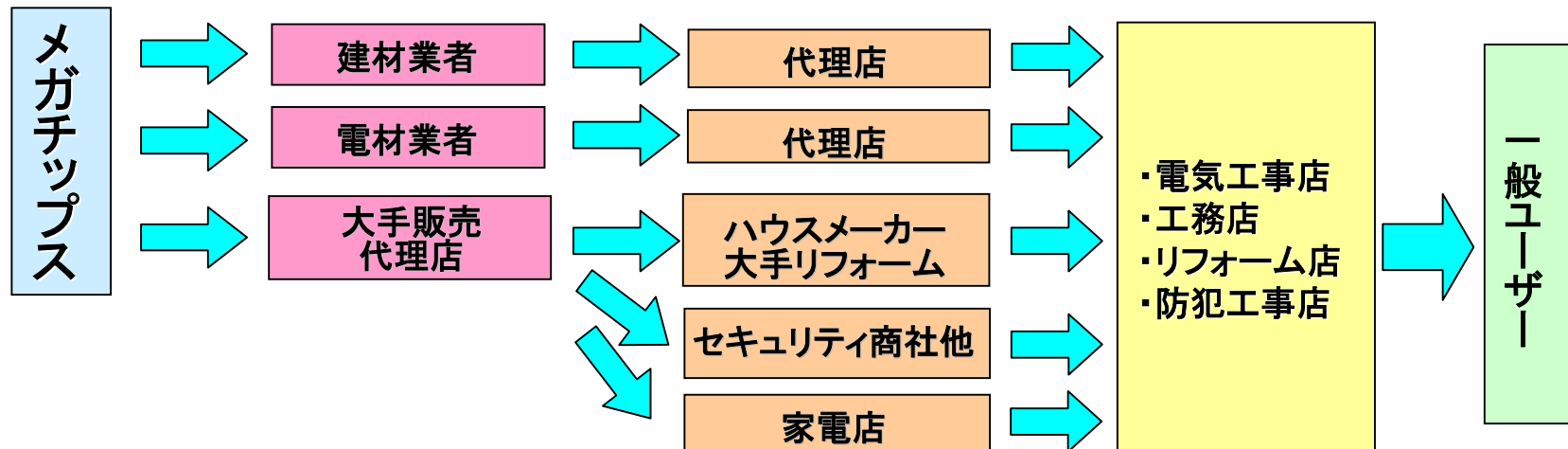
# ドアホン市場と販路

## ドアホン市場規模

※出典:2006 セキュリティ関連市場の将来展望(富士経済)



## 販売チャンネル



# まとめ (Key Investment Highlights)

LSI事業、システム事業の成長分野の育成を強化すると同時に、両事業の能力を有機的に結合し、ソリューションプロバイダーとして更なる成長を図る。

## LSI事業

- ASIC は収益基盤事業として堅持する。
- ASSPはマルチメディア携帯電話、高画質デジタルカメラに加えて、コンパクトデジタルカメラ、デジタルTV受信携帯電話、車載TV、HD映像機器等の応用分野を開拓。高級機種から普及機種へ対象を広げる。

- LSI事業、システム事業の能力の融合と、他社との協業により、ソリューションプロバイダとしてビジネスを拡大する。

## システム事業

- 映像監視機器のデジタル化のトレンドにのり、監視カメラを含め映像監視の全領域をカバーする。着実に成長する業務用途に加え、ホーム用途にも進出。
- 安心・安全をサポートするフル動画ドアホンで、セルフセキュリティ市場を開拓する。

# IRポリシー

## ≫IR活動の目的と基本姿勢

弊社は、「透明性」「公平性」「適時性」を基本姿勢として、企業価値に対する適正な株価形成を目的に、株主・投資家・証券アナリストなどからの信頼と正当な評価を得るために、積極的なIR活動に取り組んでおります。

## ≫開示の基準

弊社は、東京証券取引所の定める適時開示規則（以下、「適時開示規則」という。）に沿って情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、株主・投資家・証券アナリストなどの需要に応えるべく、公平かつ積極的な開示に努めています。

## ≫開示の方法

弊社は、適時開示規則に該当する情報を開示する場合には、同規則に沿って、事前に当該情報の内容を東京証券取引所に説明し、同取引所のTDnet（Timely Disclosure network：適時開示情報伝達システム）にて開示するとともに、プレスリリースにて発表しております。

# IRポリシー

## ≫ 将来の見通しについて

弊社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する記述が含まれる場合があります。これら見通しについては、現在入手可能な情報に基づき一定の前提のもとに作成したものであり、実際の弊社の事業内容や業績は、さまざまな要素によりこれらの見通しとは大きく異なる可能性があります。したがって、弊社の事業や業績あるいは企業価値などを検討される際には、これらの見通しのみを全面的に依拠することは控えていただきますようお願いいたします。

## ≫ IR自粛期間

弊社は、決算発表準備中に株価に影響を与える情報が漏れることを防ぐために、各四半期の、期末10営業日前から弊社の決算発表までの間を自粛期間と定め、IR活動を自粛いたします。この期間中は、取材やミーティングへの出席ならびに決算内容や業績見通しなどに関するお問い合わせへの対応を控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、適時開示規則に該当する情報については、自粛期間中であっても適宜情報開示を行った後、お問い合わせに対応いたします。

# 參考資料

# 中期経営計画（研究開発費計画）

(単位:百万円)	2007.3		2008.3		2009.3	2010.3
	3Q実績	通期実績	3Q実績	通期実績	通期計画	通期計画
LSI事業	867	1,204	947	1,500	2,100	2,600
システム事業	72	88	54	200	600	1,200
計	940	1,293	1,001	1,700	2,700	3,800

# 地上デジタルTVシステム構成



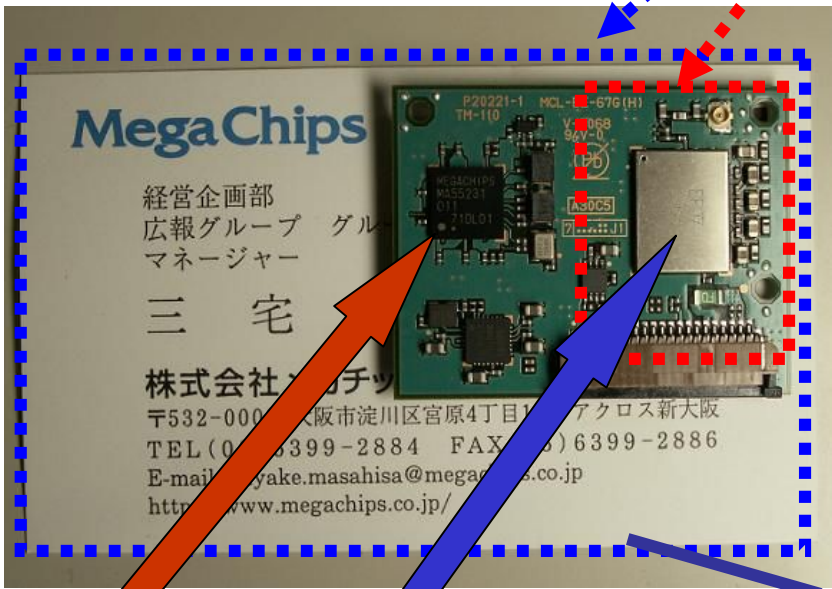
■ : MCC製品

# 地上デジタルTVソリューション

チューナーユニット

従来ユニットサイズ  
次期ユニットサイズ

ソフトウェア

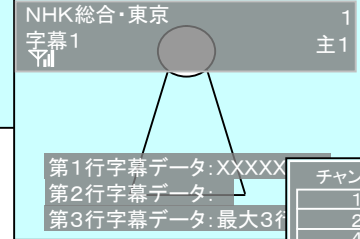
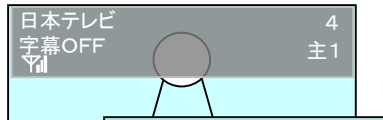


ワンセグ再生  
専用LSI

ワンセグ受信用LSI搭載  
チューナーモジュール

+

チャンネルサーチ



字幕表示

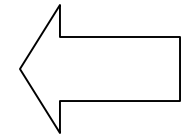
EPG(電子番組情報)表示

番組リスト	5月22日(火)
1 NHK総合・東京	
09:30-09:55	きょうの料理プラス
09:55-10:00	ニュース・気象情報
10:00-11:54	国会中継

チャンネルリスト表示

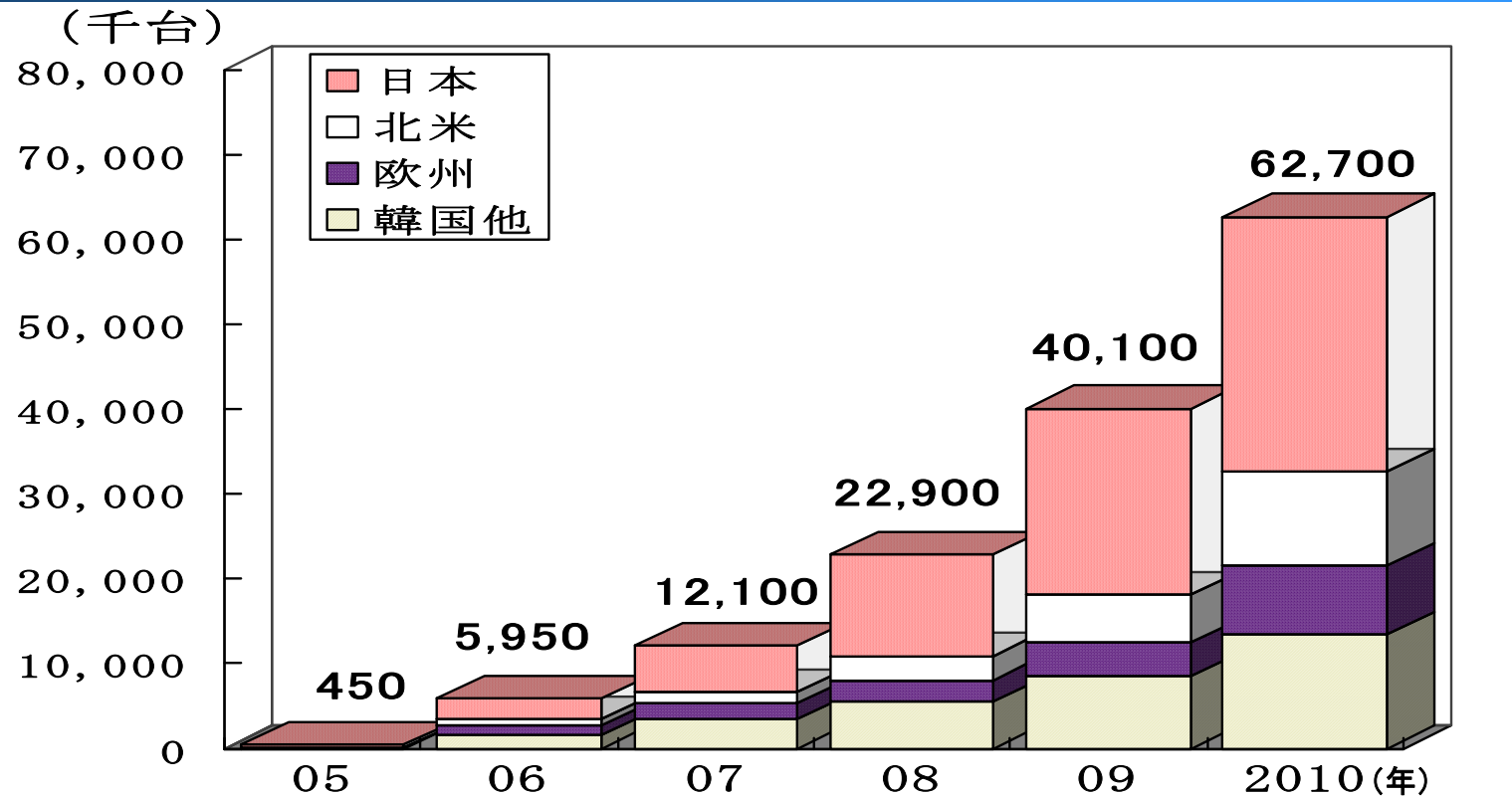
チャンネルリスト
1 NHK総合・東京
2 NHK教育・東京
4 日本テレビ
5 テレビ朝日
6 TBS
7 テレビ東京
8 フジテレビジョン

- ・主副音声再生
- ・受信感度表示
- ・音声状態表示etc



MegaChips

# 地デジ対応携帯電話機の世界市場予測



単位:千台

	05年	06年	07年	08年	09年	2010年
日本	350	2,450	5,400	12,000	22,000	30,000
欧州	0	1,150	1,800	2,600	4,000	8,000
北米	0	750	1,400	2,800	5,600	11,200
アジア他	100	1,600	3,500	5,500	8,500	13,500
総合計	450	5,950	12,100	22,900	40,100	62,700

出典: 中日社

# ASSPのターゲット分野と市場規模

	ターゲット機器	全世界		国内	
		2006年度 (百万台)	2008年度 (百万台)	2006年度 (百万台)	2008年度 (百万台)
①デジタル カメラ	デジタル一眼レフカメラ	5.3	6.5	0.7	0.8
	コンパクトデジタルカメラ	73.7	82.0	8.7	8.5
②携帯電話	高画素カメラ付き携帯電話	40.0	180.0	20.0	38.0
	地上デジタルTV 受信携帯電話	5.5	22.0	2.5	12.0
③車載機器	カーナビゲーションシステム	11.0	20.0	4.0	5.0
④ハイビジョン AV機器	地上デジタルTV	52.0	100.0	4.5	8.0
	次世代レコーダー (HD DVD、BlueRay)	0.3	4.0	0.2	3.0

出典：①カメラ映像機器工業会、②～④中日社

# システム事業のターゲット分野と市場規模

	ターゲット機器	2006年度 (千台)	2008年度 (千台)	出典
映像監視機器	監視カメラ	883	1,052	2006年度: (株)富士経済
	映像録画装置	116	160	2006年度: (株)富士経済
	映像伝送装置	15	16	2006年度: (株)富士経済

※映像監視機器の市場規模台数は国内市場。

## 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス  
経営管理統括部 広報部  
[ir-team@megachips.co.jp](mailto:ir-team@megachips.co.jp)

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪  
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886